

主催：とよさか歴史地形探検会



福島潟干拓の歴史から地域を知る



## 江戸時代から水との闘いを経て、現在の田園地帯を獲得。

新潟市北区の福島潟周辺は高低差がほとんどなく、平坦な土が広がっている。福島潟の砂丘列も高いところで海拔6メートルほどである。福島潟は江戸時代から干拓が始まり、現在の形になったのは昭和の中頃である。昭和41年に下越地区を中心に発生した下越水害、翌42年に記録的な集中豪雨に見舞われた羽越水害時には、福島潟周辺の多くの地域が浸水した。この経験を経て新井郷川排水機場や福島潟放水路などの整備が進み、現在のまちの形になった。豊かな自然や川に囲まれたこの土地が多くの方の先人の力によってあることをあらためて知り、また学ぶことで、より地域に愛着を持つもらいたいと考えた。多くの参加者とともにつくりあげた立体マップは、参加者以外の方にも福島潟をはじめ新潟市内に多くの潟が存在することをあらためて考えてもらうキッカケになったように感じられる。水と土の恩恵によって豊かな自然や恵がもたらされて

いること。そこには多くの人々と長い干拓の歴史があることを忘れてはならないと思う。私たちが住むこのまちを水害から守る仕組みは今も進化を続けている。過去の歴史の上に現在の営みがあることを決して忘れてならない。さまざまな施設見学を経験したが、より多くの方に北区の歴史を学んでもらいたく、機会があれば、施設見学などを今後も年数回開催できればと考えている。

(文：小比田)

- 7月22日(日) 博物館で歴史を知る、蒸気船の発着跡地を見る（北区郷土博物館～まちあるき）
- 8月18日(土)～8月19日(日) マップづくり（とよさかベースキャンプ）
- 8月26日(日) 福島潟の排水を学ぶ～振り返り（新井郷川排水機場～とよさかベースキャンプ）他2件